

指導資料



鹿児島県総合教育センター

外国語活動 第 1 号

— 小学校，特別支援学校対象 —

平成21年 5 月発行

小学校外国語活動における効果的な授業設計の在り方 — 児童が英語に慣れ親しむ活動の工夫 —

新学習指導要領において，外国語活動の目標は「外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。」と示されている。

現在，各小学校においては，外国語活動の必修化に向けて，コミュニケーション能力の素地を養う授業展開を目指した年間指導計画の作成及び1単位時間の授業づくりなどの取組が始まっている。

そこで本稿では，コミュニケーション能力の素地を養うことを目指し，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる活動の工夫を図った効果的な授業設計の在り方について述べることとする。

1 外国語活動における基本的な考え方

外国語活動の目標は，①言語や文化について体験的に理解を深めること，②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること，③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること，の三つの柱から成り立っている。

これらの柱を踏まえた活動を外国語を通じて統合的に体験させることで，中学校・高等学校の外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地を養うことが求められる。

外国語活動においては，実際に外国語を用いてコミュニケーションを体験させることにより，日本語とは異なる言語に触れ，言語の面白さや豊かさ等に気付かせることが基本となる。その際，例えば，あいさつをする，簡単な質問をする，自分の好みを伝えるなど，外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験させる。また，ジェスチャーや表情など，言葉によらないコミュニケーションの手段を効果的に活用し，自分の思いを積極的に相手に伝える活動を行うことも大切である。

小学校段階における外国語活動においては，使用する表現の文構造などを理解したり，言語習得を目指した言語活動を行ったりする中学校外国語科とは異なり，「聞くこと」や「話すこと」等の活動を実際のコミュニケーションを通して体験させ，外国語の音声や表現に慣れ親しませることが大切である。

2 年間指導計画の作成のポイント

外国語活動の目標は、2学年を通じて達成される目標が示されている。

したがって、これまでの国際理解に関する学習の取組等を生かし、各学校の実態や地域の実情に応じて、学年ごとの目標を適切に定め、年間指導計画を作成する必要がある。その作成に当たっては、児童の発達の段階、興味・関心等の実態を把握した上で、計画的かつ系統的にコミュニケーション活動を取り入れることが大切である。

そこで、外国語活動の年間指導計画を作成するポイントとして以下のようなことが考えられる。

年間指導計画の作成のポイント
① 年間を通しての学年の目標を決める。 → 児童の興味・関心を重視した題材の教材化を図る。また、地域の行事等も取り入れるようにする。
② 各単元の目標と内容を決める。 → 体験させたいことを明確にする。また、語彙や表現などが繰り返し用いられるよう工夫する。
③ 異なる文化をもつ人々との交流の場を設定する。 → 児童が実際にコミュニケーションをしたいという願いや自分の英語が本当に通じるかどうか試してみたいという思いをもたせるよう工夫する。 ※ ALT, ゲストティーチャーや地域に住む外国人などの活用を図る。
④ 1単位時間の目標と活動内容を決める。 → 児童の興味・関心に合う活動を設定する。「聞くこと」から「話すこと」の活動となるような指導過程を工夫する。
⑤ 1単位時間における語彙や表現やコミュニケーション活動の形態などを決める。 → 児童にとって難しいと思われる表現は避ける。

3 授業に取り入れたい活動

外国語活動においては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」などの4技能の習得を主な目的とする言語活動を行うのではなく、外国語の音声や基本表現に慣れ親しませる授業設計を工夫することが大切である。

外国語の音声や基本表現に慣れ親しませる活動として、「聞くこと」を中心にした活動、「話すこと」を中心にした活動が考えられる。さらに「聞くこと」と「話すこと」を組み合わせたコミュニケーションを中心とした活動を行う必要がある。

(1) 「聞くこと」を中心とした活動

外国語の音声や基本表現に慣れ親しませるには、児童に「話すこと」を性急に求めるのではなく、「聞くこと」の活動を十分に行うことが必要である。その際、授業者は、児童が「大体分かった。」、「こんなことかな。」と大まかなことが分かるような工夫を行うことが大切である。

ア 目的をもたせた「聞くこと」の活動

語彙や基本表現を単に機械的に繰り返し聞かせるのではなく、「どんな色か聞いてみよう。」、「いくつあるか聞いてみよう。」など、目的をもたせた「聞くこと」の活動を工夫する。

イ 聞く内容の文脈を把握させる活動

絵や写真等を活用し、聞く内容について、児童に文脈のイメージをもたせる。また、ジェスチャーや具体物などを用いながら、語彙や基本表現を繰り返し児童に聞かせることで話の内容を推測させる活動を行う。

ウ 語彙や表現をフィードバックする活動

「聞くこと」の活動後、その内容で使われている語彙や表現を交えながら教師が声かけを行うなど、語彙や表現を繰り返し聞かせることが大切である。また、聞いた内容を児童相互に確認させるためにペアやグループ活動を設定することも効果的である。

(2) 「話すこと」を中心とした活動

「話すこと」の活動において、児童が語彙や表現を実際に使うことで、「聞くこと」への興味・関心を一層高めることができる。

その活動の際には、語彙や表現を正確に言えなくても、自分の考えや気持ちは伝わることを児童に教えることが大切である。そのためには、児童が間違いを恐れずに「話すこと」の活動に積極的に取り組むような雰囲気づくりを行う必要がある。

ア 語彙や表現を楽しく繰り返す活動

語数の多い表現や複雑な表現のものを避け、児童にとって身近な題材となる語彙や基本表現などをたくさん聞かせた後、繰り返し言わせるようにする。

- ・ 語彙や基本表現の導入を行う際、絵や写真等を活用したり、ジェスチャーや表情など、添えたりする。
- ・ What do you want to be? のように少し語数の多い表現は、チャンツ等を取り入れて、児童がリズムに乗って楽しく繰り返し練習ができ

るような活動を設定する。

イ クラスルーム・イングリッシュ（あいさつや指示など授業で使われる表現）の活用を図った活動

指導者自らがクラスルーム・イングリッシュを使うことで、児童が英語を使おうとする意欲を高めることが期待できる。その際、児童にコミュニケーションの楽しさを感じさせるようにする。

（クラスルーム・イングリッシュの例）

Hello. How are you? I'm fine.

Say it again, please. Excuse me.

Thank you. You're welcome.

Listen. Repeat after me.

Let's play a game. Line up.

Make two lines. Make pairs. など

ウ 活動に応じた学習形態の工夫

学習形態を活動に応じて設定し、児童が自ら話してみたいくなるように工夫する必要がある。

- ・ 一斉の学習形態で授業者と一緒に CD などの音声教材をまねる。
- ・ グループやペアで語彙、表現、簡単な対話などを練習する。 など

(3) コミュニケーションを中心とした活動

「聞くこと」や「話すこと」の活動で語彙や基本表現に慣れ親しませた後、実際にそれらの表現等を使って、友だちや授業者に尋ねたり、答えたり、互いの意見を交換し合ったりするコミュニケーション活動を行わせる必要がある。

ア 情報のやり取りがなされる活動

児童が相互に相手を見つけて、インタビューゲームや対話活動等を行う。

(例) Do you like ~? - Yes, I do. /

No, I don't. など、児童が慣れ親しんだ基本表現を使って、友だちと相互に好きなものや嫌いなものについての情報のやり取りを行う。

イ ジェスチャーや表情などの非言語を含んだ活動

言語のみによるコミュニケーションばかりでなく、ジェスチャーや表情などの非言語的な要素を含んだコミュニケーション活動を体験させることが大切である。

(例) 「英語ノート(第5学年)」では、単元名「ジェスチャーをしよう」において、言葉に合わせて、いろいろな表情をさせたり、ジェスチャーを付けてあいさつをさせたりする活動を設定している。

4 指導例

コミュニケーション能力の素地を養うことを目指し、児童が英語に慣れ親しむ活動の工夫について指導例を通して述べる。

【英語ノート 第6学年 試作版】

(1) 単元：Lesson 9「将来の夢を紹介しよう」

(2) 単元の目標

自分の将来の夢やつきたい職業について、紹介したり、友だちに聞いたりしよう。

(3) 単元の主な内容

ア 主としてコミュニケーションに関すること

将来の夢やつきたい職業について、簡単な英語を用いて紹介したり、友だちのスピーチを聞いたりして、伝え合う楽しさを体験する。また、活動を通して自分の思いを伝えることの大切さを知る。

イ 主として言語や文化に関すること

将来の夢やつきたい職業についての表現を聞いたり話したりしながら、英語の音声やリズム、表現に慣れ親しむ。また、英語の職業名を通して、職業に対する多様なものの見方や考え方があることに気付く。

(4) 主な語彙及び表現

ア 語彙

teacher, doctor, driver, singer, nurse, cook, farmer, pilot, astronaut, scientist, engineer, police officer, tennis player, baseball player, soccer player, racing driver, taxi driver, fire fighter, computer programmer, be, want など

イ 表現

What do you want to be?

I want to be ~. Because I like ~.

What's your dream?

(5) 単元構成上の工夫

ア 必要な語彙や基本表現に慣れ親しませるためにチャンツやゲーム等を工夫し、児童が目的をもって同じ表現を繰り返し使う活動を設定する。

イ 第4時にALTや地域の外国人に対して児童が自分の将来の夢について紹介できるよう交流の場を設定する。

(6) 単元の指導計画例

	目標及び指導上の留意点
第1時	<p>目標：「様々な職業の言い方を知ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> Let's Listen (p. 56)の絵を見せながら、CDを聞かせ、どんな職業か推測させる。 Let's Play (p. 57)の職業ビンゴ・ゲームを行わせる。 職業絵カードを準備し、クイズを行わせる。(pp. 62-63, p. 79の絵カードなどを活用して児童が身近に感じる職業絵カードを20枚程度準備する。) 職業カルタゲームをグループで行わせる。
第2時 (本時)	<p>目標：「将来の夢やつきたい職業を伝えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に活用した職業カードを用いて、クイズを行い、英語の職業名について想起させる。 p. 58の内容を活用して、I want to be....の表現に触れさせる。 Let's Chant (p. 57)の活用を図り、What do you want to be? - I want to be ~.の表現に慣れ親しませる。 グループで職業双六ゲームを行わせる。(職業双六ゲームを準備する。) Let's Play (p. 59)のチェーン・ゲームを学級全体で行う。
第3時	<p>目標：「ALTとの交流会の準備をしよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> Let's Enjoy (pp. 62-63)の絵を用いて、What do you want to be? - I want to be ~.の表現や英語の職業名などについて想起させる。(チャンツ等の活用を図る。) 前時で行ったLet's Play (p. 59)のチェーン・ゲームを学級全体で再度行わせる。(前時で対話ができなかった相手を探し、ゲームを行わせる。) 自分の夢を紹介するためのスピーチ・メモ(p.60)を作成させる。(Because I like ~.などの表現を使い、理由を含めて自分の夢を紹介させる。) 作成したスピーチ・メモを基に、グループで発表させる。(次時のALTを招いての交流会の準備を行わせる。)
第4時	<p>目標：「ALTとの交流会で、将来の夢についてたずねたり、答えたりしよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> Let's Enjoy (pp. 62-63)の絵を用いて、What do you want to be? - I want to be ~. Because I like ~.などの表現や英語の職業名などについて想起させる。(チャンツ等の活用) スピーチの仕方について把握させる。(あいさつ、名前、将来つきたい職業・夢、理由、礼を言うなどの表現について説明を行うとともに、表現の練習を行わせる。) 友だちのスピーチを聞いて分かったことをワークシート(p. 61)に記入させる。 ALTの将来の夢を聞くとともに、児童一人一人のスピーチについてコメントを聞かせる。(児童とALTとの交流の場を設定し、異文化について理解を深めさせる。)

(7) 本時の目標 (2/4)

ア 英語の職業名の言い方などについて興味をもち、日本の職業名との違いを通して、多様なものの見方、考え方や言葉の面白さ、豊かさに気付く。【言語や文化についての体験的な理解】

イ 自分の夢やつきたい職業に関する語彙や基本表現を用いたゲームなどを楽しみながら、友達に聞いたり、話したりすることを通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度】

ウ どんな職業につきたいか尋ねたり、答えたりするときに必要な語彙や基本表現に慣れ親しむ。【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】

(8) 本時の授業設計の工夫

ア 前時に扱った英語の職業名や表現を想起させるため、職業絵カードやチャンツを活用して繰り返し語彙を練習させる。

イ 自分の夢やつきたい職業について尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しませるため、各グループで職業双六ゲームを行う。

ウ 慣れ親しんだ表現を実際に活用させるため、お互いにインタビューするチェーン・ゲームを設定する。その際、児童一人一人が学級の多くの友だちとコミュニケーションを図ることができるように工夫する。

(9) 本時の実際

過程	主な児童の活動	時間	学級担任（HRT）及びALTの活動	指導上の留意点 ◎評価の観点 ●指導の工夫
導入	1 あいさつをする。	7分	・ 楽しい雰囲気を始められるように明るく笑顔であいさつを交わす。 ・ 前時に扱った職業絵カードを活用し、職業名の英語の言い方を想起させ、クイズを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よくあいさつさせる。 ・ 職業名の英語の言い方に留意させ、クイズに答えさせる。
	2 職業絵カードを活用したクイズを行う。		<p>Now let's play Quiz. What's the job? I'll give you some hints. A good idea. Nice try!</p>	
	3 チャンツを行う。		・ 前時に活用した職業絵カードを黒板に設営し、チャンツを行わせる。	
展開	4 本時の目標を確認する。	33分	<p>将来の夢やつきたい職業を伝えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を板書し、明確に把握させる。 ・ 絵の登場人物の表情等に注目させながらCDを聞かせる。 ・ 職業カードやチャンツを活用して語彙や表現に慣れ親しませる。 ◎ 目標となる表現をチャンツに合わせて言う。 ● 机間指導を行い、表現でつまづいている児童に対して個別に支援を行う。 ◎ 目標となる表現に慣れ親しみながらゲームを楽しむ。 ● 既習の表現を付け加えて、児童相互にやりとりさせる。
	5 CDを聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Listen (p. 58) の CD を聞かせ、登場人物のつきたい職業を推測させる。 ・ Let's Chant "When I Grow Up" (p. 57) を使い目標の表現に慣れ親しませる。 	
	6 チャンツに合わせて目標となる表現の練習を行う。		<p>Let's do the chant together. And you can see some cards. You did a good job. Try again!</p>	
	7 グループで職業双六ゲームを行う。 (表現を繰り返しながら、ゲームに取り組む。)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業双六ゲームのルール等を説明し、グループで協力して取り組むように指示する。 	
	8 チェーン・ゲームを行う。		<p>職業を表す絵が描かれている双六ワークシートを用意する。</p> <p>What do you want to be? I want to be a</p> <p>A: Hello. What do you want to be? B: I want to be a I like A: I see. Bye.</p>	
まとめ	9 本時を振り返る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の態度面や活動面についてよかったところを具体的に挙げる。 <p>Let's look back. What did you do (like)?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 楽しく活動できたか、協力して活動できたかなどを確かめる。 ・ 次時にどのような活動をしてみたいかを聞き、活動への意欲を引き出す。 ・ 元気よくあいさつさせる。
	10 次時の活動について聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の活動について予告を行う。 	
	11 あいさつをする。		<p>Tomorrow (Next) , we will do...</p> <p>Good-bye. See you.</p>	

(「英語ノート 指導資料 第6学年 試作版」を基に作成)

このような指導の工夫を行うことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることが期待できる。

各学校において、外国語の音声や表現に慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地を養う取組を一層期待したい。

[引用・参考文献]

文部科学省『小学校学習指導要領解説外国語活動編』平成20年
文部科学省『英語ノート指導資料第6学年試作版』平成20年
安彦忠彦監修『小学校学習指導要領の解説と展開 外国語活動編』平成20年 教育出版

(教科教育研修課)